

日ひ（明治めいじ天てん皇御製ぎよせい）

さしのぼる 朝日あさひのごとく さわやかに

もたま ほしきは 心こころなりけり

**通釈** 朝日の昇るのをみると、誰でもさわやかな心になります。

この時の気分で、毎日生活出来たら、どんなに楽しく幸福でしょう。毎朝、神様を拝むことも、いつも神徳を仰いで清々しい心で、一日を幸しあわせにはたらくためです。を述べた詩

**語釈** ※さしのぼる＝「さし」は「のぼる」の接頭語。意味を添えたり、調子をととのえる時使うことば。※もたま＝「持つ」の尊敬語。※なりけり＝断定の「なり」と回想の「けり」の結合したもの。である、くだなあ。

**通釈** 空高く昇っていく朝日のように、いつもすがすがしく、明るくさわやかな心もちちものです。